

第2章 科学技術を伝えるさまざまな手法

この章では、科学技術理解増進活動に用いられるさまざまな手法について、具体的な事例を参照しつつ解説します。本手引書では、網羅性に配慮し、次に示すように多岐にわたる手法を取り上げています。

■本手引書で取り上げている理解増進手法

- ① Web サイトでの情報発信
- ② 広報誌などの出版物による情報発信
- ③ 科学番組放送・科学技術映像コンテンツ配信
- ④ 博物館・科学館・展示見学施設での展示・情報発信
- ⑤ 研究施設等の見学プログラム
- ⑥ 発表発信型イベント
- ⑦ 双方向型イベント
- ⑧ 実験観察参加体験型イベント
- ⑨ 先進的な科学技術教育
- ⑩ 科学技術コンテスト・表彰

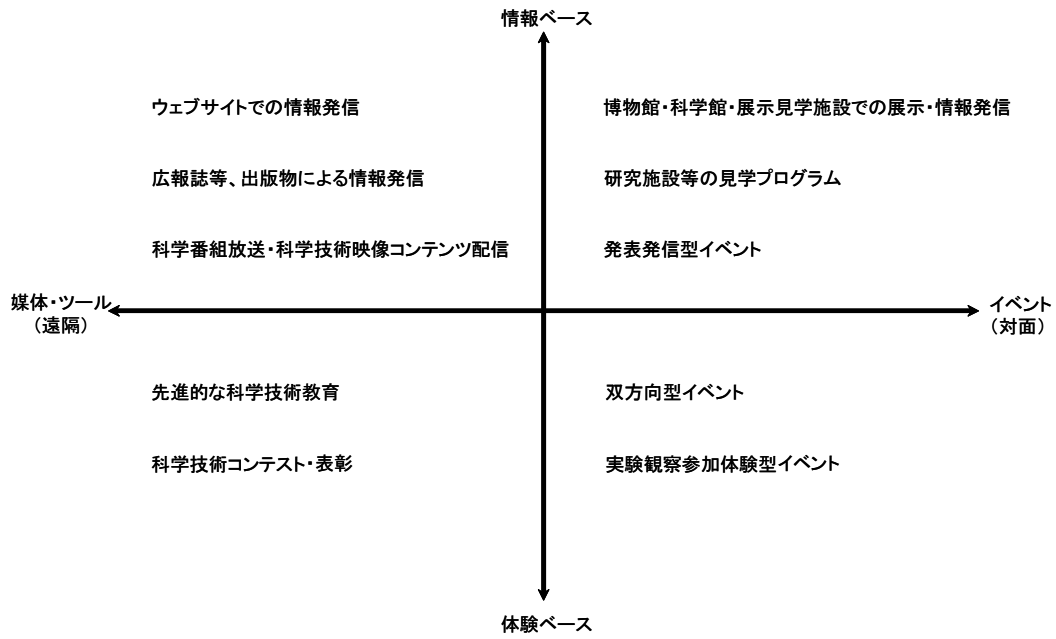
このような数多くの手法は、2つの観点から整理すると、それぞれの特徴がすっきりと理解できます。1つは、情報のやり取りを中心とした「情報ベース」の手法か、それとも実際に体験することを軸とする「体験ベース」の手法かという観点です。もう1つは、何らかのコミュニケーション媒体を活用し、相手とリモート（遠隔）な関係で用いる手法なのか、あるいはフェイス・トゥ・フェイス（対面）の関係でのイベント的な活動手法なのかという観点です。

例えば、博物館・科学館・展示見学施設での展示活動は、来館者が展示内容を勉強するという「情報ベース」の手法で（少なくとも従来は）ありつつ、フェイス・トゥ・フェイスの関係で行うものだと考えることができます。

このような形で理解増進手法を整理した結果を、以下に示します。理解増進活動を企画するにあたって豊かな発想を得るためには、こうした手法体系を念頭に置いておくことが役立つでしょう。組み合わせによって、新たな可能性が開けることもあるはずです。

なお、各手法についての解説はそれぞれ完結していますので、関心をお持ちの手法に関するページだけお読みいただいても大丈夫です。もちろん、時間がありましたら、通読して全体像を掴んでいただきたいと思います。

■ 本手引書における理解増進手法の体系



2-1 Web サイトでの情報発信

ウェブサイトは、数多くの利用者に、比較的低コストで閲覧していただける、便利な媒体です。掲載できる情報量は非常に大きく、事実上無制限に近いといえます。その反面、情報が探しにくくなりやすいため、コンテンツの整理には十分な配慮が必要です。また、利用者に情報を能動的に届けるのではなく、訪れていただく（数多くのサイトの中から選んでいただく）必要があるため、活動主体にはアクセスを促すための工夫が求められるところです。

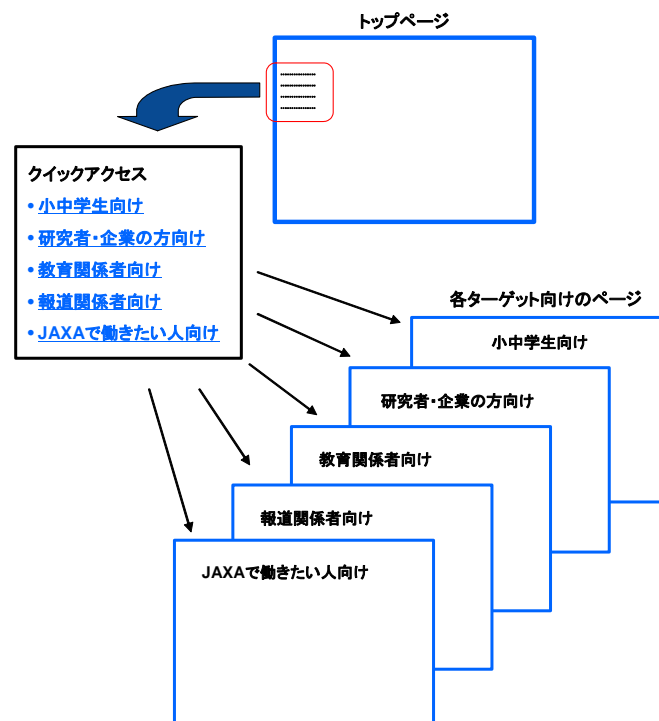
(1) サイト内のナビゲーション（見やすさ、情報の探しやすさ）を工夫

① ターゲット別の入口を設置

宇宙航空研究開発機構（JAXA）の Web サイト¹は、トップページの左側メニューにターゲット別の「クイックアクセス」というポータル（玄関）を設けており、サイト閲覧者がすぐに自分の探す情報に辿り着けるようにしています。

海洋研究開発機構（JAMSTEC）、農業・食品作業技術総合研究機構（NARO）の Web サイト^{2,3}にも、同様の工夫が施されています。

■ トップページ上のターゲット別入口（宇宙航空研究開発機構の Web サイト）



¹ 宇宙航空研究開発機構（JAXA）の Web サイト：<http://www.jaxa.jp/>

² 海洋研究開発機構（JAMSTEC）の Web サイト：<http://www.jamstec.go.jp/>

³ 農業・食品作業技術総合研究機構（NARO）の Web サイト：<http://www.naro.affrc.go.jp/>

米国のピッツバーグ子ども博物館（The Children's Museum of Pittsburgh）の Web サイト⁴も、子ども向け、親向け、教師向け、その他の大人向けとページを分けています。子どもや親向けのものには、アニメーションを多く使う一方、他のページにはより専門的な情報を載せ、構成もシンプルなものとしています。

② 利用者の自然な感覚に配慮したサイト設計

JT 生命誌研究館（Biohistory Research Hall : BRH）の Web サイト⁵では、誰もが長年親しんできている「本を読む」感覚を、オンラインで再現する試みを行っています。サイト全体を本の目次を見るようにして俯瞰するチャートを常時表示し、「全体の中で読んでいる場所がわかる」「初めから読むことも、行きつ戻りつしながら読むこともできる」「注を見れば、関連情報や参考資料を探せる」といった本の長所を導入しています。

■ サイト全体を俯瞰するチャート（JT 生命誌研究館）



(出典) JT 生命誌研究館からの資料（Web 素材）提供に基づいて懶ノルドが作成

⁴ ピッツバーグ子ども博物館の Web サイト：<http://www.pittsburghkids.org/>

⁵ JT 生命誌研究館（BRH）の Web サイト：<http://www.brh.co.jp/>

(2) ユニークなコンテンツによるアクセス向上

① エンターテインメント性が高いコンテンツを提供

科学技術振興機構（JST）の「JST バーチャル科学館」⁶は、インターネット上で人体、ヒトゲノム、生物、地球、宇宙、日常生活の中の科学といった幅広い領域の科学情報を発信している Web サイトです。「美しさ」「やさしさ」を重視し、アニメーションを含め、エンターテインメント性の高いコンテンツを制作、掲載しています。更新頻度は年 1 回程度と低いですが、それでも月間 100 万件程度のアクセスを誇っています。

■ 「JST バーチャル科学館」のコンテンツ例



「JST バーチャル科学館」より
(資料提供) 科学技術振興機構

② 分野に関する包括的なポータル/データベース機能を提供

国立環境研究所の「EIC ネット」⁷は、行政、研究者、企業、NGO、市民が一体となって環境情報を共有し、環境問題について共に考えて行動することを可能にするためのポータルサイトとして提供されています。このサイトは、環境科学をメインテーマとしつつ、生活に関連した情報、海外情報、環境に関する社会的情報などを幅広く掲載し、環境問題に関係する情報を包括的に扱う「ワンストップ型ポータル」として、アクセス向上を目指しています。

③ モバイルコンテンツを提供

宇宙航空研究開発機構（JAXA）は、Web サイトのコンテンツの一部を、「JAXA モバイ

⁶ JST バーチャル科学館：<http://jvsc.ist.go.jp/>

⁷ 国立環境研究所 EIC ネット：<http://www.eic.or.jp/>

ル」 という携帯電話端末向けサイトでも提供しています。

(3) 小まめなアプローチによるアクセス向上

① 最新情報をコンスタントに届ける

海洋研究開発機構 (JAMSTEC) では、毎月 10 日と 25 日に、最新情報やイベント情報、プレゼント・アンケート情報などをメールマガジンで発信しています。これと似た取り組みとして、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) の RSS サービス (新着情報の配信) や、JT 生命誌研究館のメールマガジンなどもあります。

☞ チェックポイント

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">① Web サイトのターゲット (対象) は明確ですか。② Web サイトで扱うテーマ・内容は、ターゲット層の関心・ニーズに合っていますか。③ サイトには、わざわざ訪問するに足だけの工夫・魅力が施されていますか。④ 読みやすいレイアウトになっていますか。⑤ 情報が探しやすく整理されていますか。また、検索機能は整備されていますか。⑥ 情報は定期的に更新されていますか。⑦ ニュース性のある情報はすぐに掲載されていますか。⑧ メールマガジンなどを活用して、ターゲット層に小まめにアプローチしていますか。⑨ サイト閲覧者との対話機会・手段が確保されていますか。⑩ Web サイトに対する評価を行い、改善に役立っていますか。 |
|--|